

さきたまだより



Contents

- ◆ 「地域づくり」を語り合う一歩へ
会長 小川郁男 2
「永年勤続表彰」受賞者 3
- ◆ 地域包括ケアシステム構築 4
- ◆ 第23回埼玉県介護老人保健施設大会
優秀演題 7
- ◆ 人のため、人が使う
AI・ロボット 8
- ◆ 彩の国老健ひろば 10
- ◆ 新会員施設紹介 11
- ◆ 埼老健介護百人一首優秀歌 11

会長挨拶

「地域づくり」を

語り合う一歩へ



公益社団法人
埼玉県介護老人保健施設協会

会長 小川 郁男

会員の皆様のご支援、ご協力により29年度事業も滞りなく終了することができました。誠にありがとうございます。

本年は大きな事業計画として平成30年10月17～19日の3日間全国介護老人保健施設大会埼玉が予定されております。大会には全国の会員諸氏を始め、地域包括ケアシステム構築を担う関係・関連機関、地域住民の方々など4～5千名が大宮の地に集い、国が掲げる2025年問題についての諸課題をテーマに「地域づくり」を語り合う一歩となるように計画しています。全国大会では会員の皆さまからの、研究・研修発表の他に大会テーマとして掲げた「彩ろう！

豊かな高齢社会を」～老健は地域づくりの担い手です～を基にした地域支援のシンポジウムを三点企画しました。

「老健の担う地域包括ケアシステム」では、国の目指す老健の方向性、各地域特色のなかで老健ができる役割、老健のリハビリ職が担う地域づくり、老健と住民が共に築く地域づくりについてのシンポジウムを予定しております。

「老健とロボット」は人口減少に伴う人材不足が日ごとに高まっている現状のなかで利用者の安全性が問われています。AIが諸機関で取り上げられているなか老健の近未来を見据えた対応・対策を検討していかなく

てはなりません。今回各部署からの専門家をシンポジストに迎えて討論を予定しています。

「災害対策」は埼玉県としても防災計画を進めて体制整備につとめています。私ども協会も県大会を通じてこの2年間は「埼玉老健協会が進める災害対策」のシンポジウムを開催しております。10月の全国大会では埼玉老健災害対策委員会の活動をもとに、いわば埼玉老健方式を全国の仲間発信する計画をしております。その他市民公開講演、埼玉老健版介護百人一首講演、人材派遣事業、報酬改定等々企画して実施する予定です。

平成30年度は各郡市町村自治体による地域支援事業がスタートする節目の年で、この地域支援の構築を担うべき施設の在り方として老人保健施設は「在宅支援を行う施設である」ことが法律により明示され、私たち施設の果たす役割が決定したこととなります。まさにこの度の医療・介護報酬改定においても目指すべき方向性を読み取ることができます。埼玉県の高齢化は急カーブでの上昇が予測されており県内各地域で支援事業対策が課題として取り上げられ、私ども介護老人保健施設はより一層多職種の方々・病院・施設等と連携強化を図っていく事が重要となります。会員の皆さまの多大なるご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成29年度「公益社団法人埼玉県介護老人保健施設協会会長表彰」受賞者

永年勤続（81名）

五十音順（施設名）

施設名	氏名	施設名	氏名
彩の苑	大月 智彦	逍遙の郷	柳瀬 真吾
彩の苑	福島 直季	尚和園アンシャンテ	榎本 絹子
いこいの家	島田 稔章	尚和園アンシャンテ	後藤 康記
いこいの家	高野 敦史	しょうわ	川鍋美喜子
いづみケアセンター	和田 珠江	しょうわ	宮本 賀章
いづみケアセンター	内田三千則	草加ロイヤルケアセンター	葛貫 英人
うらら	小林 信雄	草加ロイヤルケアセンター	桑原あすか
うらら	島崎 伸二	鶴ヶ島ケアホーム	粟生田 敏
うらわの里	阿久津喜美子	鶴ヶ島ケアホーム	野口さだ子
鶴寿の里ナーシングホーム	阿部 靖典	戸田市立介護老人保健施設	根本 友美
鶴寿の里ナーシングホーム	武井 伴幸	なでしこ	タナベエリザハツエ
上福岡リハケアセンター	和田御射子	なでしこ	諸 みどり
上福岡リハケアセンター	堀井 園子	虹の園	須黒志津江
かみさとナーシングホーム	斉藤 実恵	虹の園	成田 純子
かみさとナーシングホーム	尾林 美幸	ぬくもり	星 陽子
カノープス☆羽生	齋藤 京子	ぬくもり	笠原 良明
カノープス☆羽生	横田 大輔	蓮田ナーシングホーム翔裕園	恒松 剛志
かがやき	野内 陽介	蓮田ナーシングホーム翔裕園	小野 達也
かがやき	佐々木英恵	飯能ケアセンター楠苑	鈴木美江子
きんもくせい	高橋恵美子	飯能ケアセンター楠苑	越川 明子
きんもくせい	刈田 春美	はつらつ	上林 信子
北埼玉ヘルスケアビレッジ	角野 和美	はつらつ	松本 朋子
北埼玉ヘルスケアビレッジ	石川 幸子	はなみずき	古橋 和子
グリーンビレッジ安行	鈴木美也子	はなみずき	武政 直樹
グリーンビレッジ安行	益子 佳祐	はなぶさ	柳田美佐保
ケアステーション所沢	後藤 範子	東松山総合福祉エリア	小林 悦哉
ケアステーション所沢	加藤 泰子	東松山総合福祉エリア	横山 稚子
ケアリングよしかわ	須中 久美	ふれあいの郷あげお	俵山 敏幸
ケア・ビレッジシャローム	中静 千晴	ふれあいの郷あげお	片岡恵美子
ケア・ビレッジシャローム	藤田 光博	FOMA・なごみ	辻 博子
厚生会川口ケアセンター	植松 一恵	FOMA・なごみ	田中恵利子
厚生会川口ケアセンター	榎本美智代	本庄ナーシングホーム	遠藤 典子
高齢者ケアセンターゆらぎ	吉澤小百合	本庄ナーシングホーム	野口 直之
高齢者ケアセンターゆらぎ	大澤 生江	みどりの杜	奥野 和浩
JCHO埼玉メディカルセンター附属介護老人保健施設	岡野 将実	みどりの館	高橋 悦子
JCHO埼玉メディカルセンター附属介護老人保健施設	加藤 千夏	みどりの館	青木 裕也
埼玉ロイヤルケアセンター	佐藤 篤	みやびの里	奥野 一人
埼玉ロイヤルケアセンター	濱田真由美	みやびの里	増田絵理子
春陽苑	高橋 彩	やまざくら	馬場 貴子
翔寿苑	廣岡 哲也	やまざくら	松島圭穂留
翔寿苑	岩間 将夫		

敬称略

STEM構築に向けた取組

埼玉県地域包括ケア局長 牧 光 治

埼玉県の現状

埼玉県は、後期高齢者人口の増加が全国で最も早いスピードで進んでおり、今後、医療や介護サービスを必要とする高齢者の増加が見込まれます。あわせて単身・夫婦のみ高齢者世帯が増加することなどから、生活面の支援を必要とする世帯も増えていきます。

一方、生産年齢人口（15～64歳）の減少に伴いサービスの担い手が減少していきませんが、高齢者の約8割は介護サービスを利用していないなど元気な高齢者と言えます。

こうした高齢者が「社会に支えられる側」から「共に社会を担う側」になる環境づくりを進め、社会の活力を維持し高めていく必要があります。

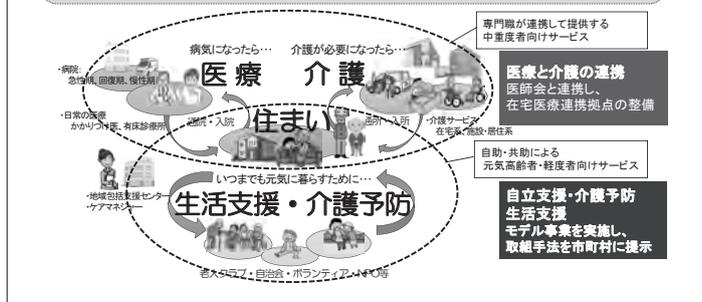
また、医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう「地域包括ケアシステム」の構築が必要です。

埼玉県の取組

地域包括ケアシステムの構築に向けた本県の取組の基本方針は、医師会、理学

地域包括ケアシステム構築に向けた取組

- ◆ 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステム
- ◆ 市町村が主体となった地域ぐるみのまちづくり
- ◆ 県は関係団体と連携し市町村を支援



療法士会などの関係団体と連携し、構築主体である市町村を支援していくことです。

大きく3つの柱（基礎づくり、医療・介護の連携、モデル事業の実施）で取組を展開しています。

まず、県内全ての市町村が遅れることなくケアシステムの構築が進むよう、人材育成などの「基礎づくり」の支援です。市町村や地域の要となる地域包括支援センターの職員を対象とした研修会の開催や、地域で高齢者を支える生活支援コ

ーディネーターの養成などを行っています。

また、市町村の取組状況を掲載した専用のホームページを立ち上げるなど広く情報発信をしています。

医療・介護の連携推進

地域包括ケアシステムを構築していく上で、医療と介護の関係者が連携して取り組むことが重要です。平成30年4月までに市町村は必要な体制整備を行うことになっていきますが、多くの市町村では医療の担当部署がないなど地元の医師会との調整が難しいと言われてきました。

そこで県では、平成27年度から医師会と共同で「在宅医療連携拠点」の設置を進め、平成29年4月には県内30ある全ての郡市医師会の地域ごとに連携拠点の設置が完了しました。県と医師会が共同で全県域において医療・介護連携の基礎を構築していく手法は全国でも例がないものです。

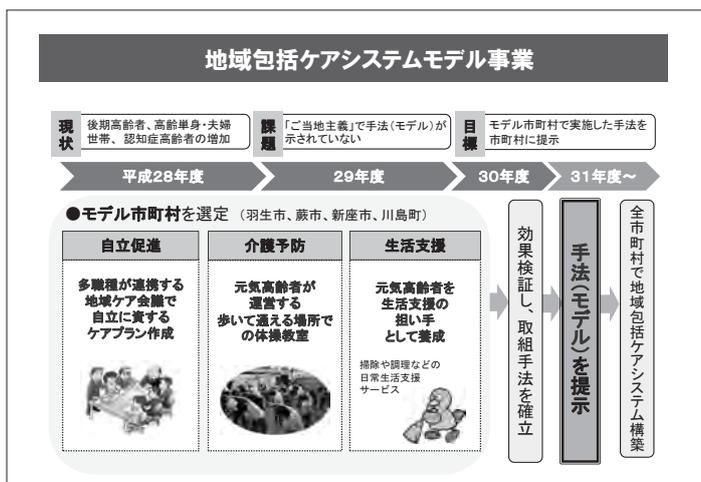
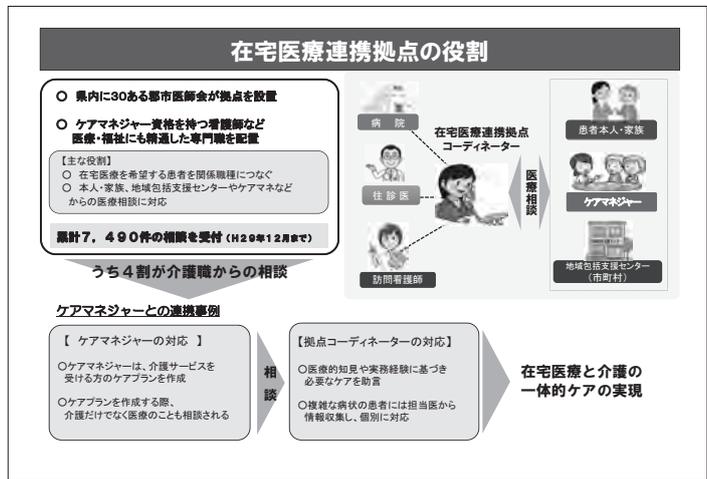
さらに、訪問診療医や訪問看護師、ケアマネジャーなど多くの関係職種がチームとして対応できるよう、在宅医療連携拠点ごとにICTを活用して患者情報を共有するネットワークシステムの構築も

埼玉県の地域包括ケアシ

医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続して

市町村における モデル事業の実施

進めています。
県では郡市医師会と市町村の調整を進め、平成30年4月からは連携拠点の運営が地元市町村に移行する予定となっています。



くためには、食事の準備や掃除などの日常生活の支援や介護予防をいかに充実させていくかがとても重要です。
そこで県では、地域で高齢者の生活を支える取組として、平成28年度から人口規模や地域性の異なる羽生市、蕨市、新座市、川島町の4つの市町で、自立支援、介護予防、生活支援を総合的に取り組むモデル事業を実施しています。
自立支援では、理学療法士などの専門職で構成される自立支援チームを県が派遣し、高齢者の自立に資するケアプラン

平成30年度から今後の医療・介護の方向性を示す第7次医療計画、第7期介護保険事業計画がスタートします。医療と介護の連携に係る取組は、両計画とも共通の考え方で策定することになっていきます。
2025年に向け両計画を着実に推進することにより、急性期における入院治療から在宅での医療、介護、生活支援まで切れ目なく必要なサービスが提供できる体制を構築し、いつまでも安心して暮らせる地域社会の実現に取り組んでいきます。

2025年に向けた 今後の取組

の作成支援を行っています。
介護予防では、身近な場所で参加できる体操教室の立ち上げ支援、生活支援では、調理や掃除が困難になった高齢者にボランティアがサービスを提供する体制の整備に取り組んでいます。
このモデル事業を通じて、地域の特性を生かした取組手法を順次市町村に提供し、それぞれの地域の実情に合わせてアレンジしていただこうと考えています。

高齢社会を」 の担い手です～

石飛幸三先生



第23回埼玉県介護老人保健施設大会



2月24日(土)、大宮のソニックシティにおいて第23回埼玉県介護老人保健施設大会が開催されました。寒さが少し緩み穏やかに晴れた当日、開会式を迎えるころには多くの参加者が小ホールに集いました。

平川理事の司会進行のもと行われた開会式では、小川都男会長から地域包括ケアシステムの中で、地域の人々と共に地域づくりを担う老健の重要性を今大会の参加者が共に考え、学び、各施設に持ち帰り、地域・施設づくりに取り組むことへの期待が述べられるとともに、10月17日～19日に開催される全国大会に集う全国の仲間を迎えるための準備を進めていることが報告されました。

来賓の埼玉県牧光治地域包括ケア局長からは上田知事の高齢化スピード日本一の埼玉県において果たす老健の役割に期待を込めたメッセージが伝えられ、埼玉県医師会湯澤俊副会長は、ご祝辞の中で地域包括ケアにおける多職種連携の重要性に触れられました。また、全老健折茂賢一朗副会長からは「全国大会で埼玉の力を全国の仲間を示すことへの強い期待」を込めたメッセージをいただきました。

その後取り行われた表彰式では、永年勤続者41施設81名、埼玉県介護老人保健施設10

名への表彰が執り行われました。受賞者代表として、JCHO埼玉メディカルセンター附属介護老人保健施設岡野将実氏より、「家族や同僚、上司に支えられ長く介護に携わる事が出来、今後とも利用者様に安心して快適に過ごして頂ける介護を目指していきます」との思いを言葉にして頂きました。

記念講演では、特別養護老人ホーム芦花ホームの医師である石飛幸三先生による演題「老衰の最期をどう迎えるか」を聞きまし。今後ますますニーズの高まる看取りについてのお話を、直接先生からいただける、と言うこともあり場内は満員御礼でありました。経験豊富な先生のひと言ひと言には、重みと説得力があり、その中にも笑いあり涙あり、時を忘れるほど看取りについての本質を学ぶことができました。講演の最後にケアワーカーが独自に作成した看取りまでのDVD

スライドショーを見終えたとき、限りある人生の締めくくりをこうやって迎えたい。1回きりの人生、悔いの残らないように1日1日を全力投球で・・・という思いを皆さんも強く抱いたのではないのでしょうか。

午後の研究発表では、口演が35演題あり、認知症やリハビリを中心にした様々な研究や地域活動、他にはアロマセラピーなど幅広い活動が紹介されておりました。ポスター発表はソニックシティビル7階で26の演題が発表されました。この中には複数の大学や専門学校の研究成果や取組が発表されていきました。

A会場でのシンポジウムは「老健の担う地域包括ケアシステムの取組」と題し、県内の看護協会、理学療法士協会、介護支援専門員協会、老健協会より招き各団体と地域連携について伝えられました。看護協会の瀬山氏か



牧 埼玉県地域包括ケア局長



湯澤 埼玉県医師会副会長



折茂 全老健副会長

「彩ろう!豊かな ～老健は地域づくり



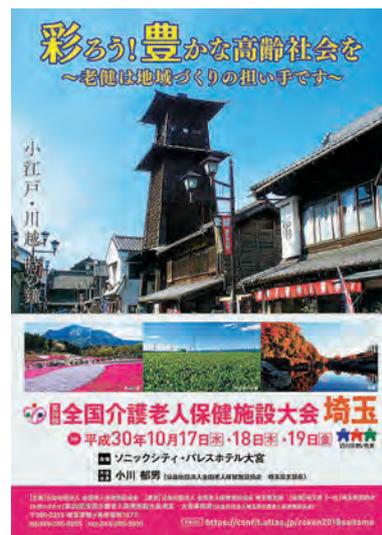
らは「病院と地域をつなぐ」、理学療法士協会の岡持氏からは「地域リハビリ支援体制について」、介護支援専門員協会の黒川氏からは「ネットワーク構築支援などについて」、老健協会の横田氏からは「老健における介護予防サロンの取組」が伝えられました。会場内では熱心に聞き入る方が多くみられ、今後の参考になるシンポジウムでした。

B会場のシンポジウムでは、埼老健の埼老健による埼老健のための災害対策と題打って埼老健協会の災害対策委員会によるシンポジウムが行われました。今回は埼老健大会シンポジウム初の試みで、災害対策委員会メンバーによる寸劇を取り入れ分かり易く表現することを試み、言葉や文字だけではない分かり易さと臨場感が表現されているように感じました。少々ぎこちない寸劇ではありましたが、災害対策を行っている施設と、取組んでいない施設の対比では、時折笑いが起こる中、うなずいている参加者の方が多いくらいでした。寸劇後のプレゼンテーションでは、3本の柱として情報共有ツールの活用、災害時の初動、防災備蓄について先進的を取り組んでいる施設のこれまでの取組の経緯が発表され大変興味深いものでした。

企業出展会場では、8時30分から15時まで出展ブース26社による介護・医療情報が展示されました。特に体験ができる機器には多くの参加者が興味を持たれており、体験後に質問されている姿が印象的でした。また昨年同様、出展ブースを回りスタンプを集めることでスイーツがもらえるスタンプラリーを実施しました。昨年に比べスタンプリヤーを皆様に認知して頂いており、出展業者はじめ参加者同士の交流のきっかけになりました。

最終的な参加人数は550名ほどで、協賛企業（出展）は26社、（広告）は24社のご協力を頂きました。

30年度は10月17日（水）～19日（金）に埼玉県で全国大会を開催します。場所は大宮ソニックシティとパレスホテル大宮にて大々的に執り行われる予定です。これにより第24回県大会は1年繰り越して32年2月に行うこととなります。埼玉で初めての全国大会になりますので、多くの方にご参加いただき、この埼玉で開催される全国大会を盛り上げていきましょう。



優秀演題

腰痛対策を端緒としたスタッフを護る取り組み

いづみケアセンター 戸坂 心

過介助を防ぎ、生活リハビリを充実するために

ハートランド桶川 長谷川明弘

当施設における看取り後の
お別れセレモニーの在り方について

プライムケア川越 村野 弘美

介護って結構〇〇!?

浦和大学短期大学部 森 由香子

人のため、

人が使うA・ロボット



埼玉県介護老人保健施設協会理事

平川汀子

A・ロボット関連の話題に事欠かない
昨今、アナログ人間の私でさえ無関心では
いられません。今秋の全国介護老人保健施
設大会では、シンポジウム「A・ロボッ
トは介護をどう変えるか？」を行うこと
になりました。

人とAとが〇〇で勝負したら・・・
最後まで人が携われる業種は何？

世間は何かと騒がしいですね。

高齢者による事故の増加と、免許証更新
時検査で「認知症とその疑いのある人が多

くいた」との報道がありました。そんな時
は「無人自動運転の到来」が、下手な高齢
ドライバーの私には、歓迎したい未来にも
思えます。

某企業がAで求職者の書類審査をした
ところ、業務時間が短縮し、効率的な採用
活動ができたそうです。介護業界とは異次
元の話です。そもそも求職者が集まらない
ために、事業存続が危ぶまれると私たちは
悩んでいるのですから。

少子型超高齢社会、多死社会、人口減社
会など、今後の日本についてマイナスイメ
ージの話ばかり。人口動態が急に変わる訳

などありません。「一人っ子政策」をとっ
た中国、移民政策とそれを排除しようとす
る国々の動きなど、過去、現在、未来とつ
ながって今があるのだと、つくづく思い知
らされます。

老健施設で働く私たちは、地域や利用者
と日々接する中で「今」をリアルに受け止
め、「これから」を真剣に考えています。

介護の歴史を振り返ると、介護福祉士と
いう介護専門職の誕生、看護でなくケアと
いう概念、介護保険制度創設、老人保健施
設など、30数年という短期間に多くの変化
があったことがわかります。施設でも便利

な機器が随分増え、パワーリハビリなどの機器、ベッド、浴槽、自助道具、排せつ用品など日々進化してきました。そもそも施設利用に際し、その物理的、心理的な垣根はかなり低くなったのではないのでしょうか？

介護保険が介護の社会化を進めました。

しかし一方で、介護の担い手不足は、ますます深刻な状況を迎えています。そこで国は、外国人労働者やAI・ロボットの導入を事態打開策の一つとしたのです。会員施設でも数種類の使用が始まり、昨年、協会は機器導入状況アンケート調査や使用施設情報交換会を行いました。(写真) 機器の



使い勝手の悪さ、高額な費用、職員の側の問題など率直な意見が出ました。どの意見も「前に進めるための」ものであり、単に不備を並べ立てるものではありませんでした。本当に必要なものは、いずれ受け入れられるし、時代は意識を変えると、これまでの歩みから思います。

「人は人でしか癒されない」という「ロボットコミュニケーター」吉原健太郎氏の言葉を紹介します。

自分とやりたいことの間には障がいのある人の事を、私は障がい者と呼びます。(略)・・・多くの人が「自分でできることで社会に貢献したい」と思っているはず。その「出来ること」を増やすた

めのツールがロボットであり、AIであり、テクノロジーだと思っています。つまり、人が何もしなくなるためのツールではなく、人が出来ることを増やすことが出来るツールです。

介護現場で働く人も、施設を利用する人も、お互い出来ることを増やすために、AI等を力にできる可能性があるなら、チャレンジしたいものです。使いこなすのは人であり、そんな多職種協働チームをいかに創るかが、老健施設という新しい施設を創設した私たちに、今また問われているのかもしれない。



彩の国

老健ひろば

彩の国老健ひろばは県民の皆様到老健を知っていただくことを目的に、毎年開催されております。2年毎に場所を変え順番に回っております。内容は、介護老人保健施設の多職種を擁する機能を最大限活かし、健康測定を実施し、その数値から医師による健康相談、支援相談員による介護相談、栄養士の栄養相談を行うほか、認知症講座など複数の講座と施設PRコーナー等を実施しております。今年度は川越市で開催し、県民の皆様181人のご参加をいただきました。次回は、平成31年11月に開催予定です。



荒船理事の講演

各種講座



シンポジウム「みんなでやろう地域づくり」

参加費無料です!
(会場費は別途200円)

埼玉老健第14回 彩の国老健ひろば

みな様のご来場を心よりお待ちしております

平成29年 11月15日(木) 10:00~16:00
6:30~10:30 10:30~16:00

毎月15日はいいお天気の日

健康測定コーナー 骨密度・聴覚検査 体脂肪率・血圧・糖力測定	施設紹介コーナー 施設に合わせた老健講座 (高須地区)	ウエスト川越 川越市高齢者センター1117 川越駅西口徒歩5分
医師による健康相談コーナー	介護なんでも相談コーナー	栄養相談コーナー
リハビリコーナー 体力測定・骨密度測定	各種講座 内容は要覧	川越市 地域包括支援センター 介護相談・介護 研修事業の 紹介等

主催：公益社団法人埼玉県介護老人保健施設協会 TEL: 049-265-5055
 共催：(公社)埼玉県福祉士会・埼玉県介護福祉士会・埼玉県介護福祉士会
 (公社)介護福祉士会・埼玉県福祉士会
 後援：埼玉県、川越市、公益社団法人全国老人保健施設協会

リハビリコーナー



各種相談コーナー



埼玉老健トピックス

埼玉県・県警察・県社協と協定を結びました

埼玉県介護老人保健施設協会

埼玉県防犯のまちづくりに関する協定締結式

埼玉県・埼玉県警察

子供や女性、高齢者等を犯罪被害から守ると共に、地域での犯罪を防止するため、当協会は埼玉県及び埼玉県警との協定を結び、埼玉県内における防犯のまちづくりを推進し、県民の皆様の安全で安心して生活環境の基盤をつくるお手伝いをさせていただきます。

埼玉県防犯のまちづくりに関する協定

埼玉県災害派遣福祉チームの派遣に関する基本協定

大規模災害発生時には、当協会の老健施設は埼玉県及び埼玉県社会福祉施設協会と相互に協力し、二次災害の防止を図ることを目的に、被災地に対して災害派遣福祉チームを派遣し、様々な支援を行います。

埼玉県災害派遣福祉チームの派遣に関する基本協定

新会員施設紹介

医療法人好文会 介護老人保健施設

あねとす

〒366-0811 埼玉県深谷市人見1975番地
TEL 048-570-0511 FAX 048-570-0512

利用料 多床室：全70床（2人部屋・3人部屋）
介護度3（第4段階/1割負担）11万程度

当施設は、平成29年4月1日に、病院併設型の施設として開設しました。

施設の構造が、併設医療機関である「あねとす病院」と廊下でつながっている為、介護と医療をスムーズに提供することが出来ます。

また、法人内には居宅介護支援事業所、訪問系サービス、通所系サービス等、在宅系サービスが充実しており、法人全



体で在宅復帰をサポートさせていただいています。
ぜひ一度ご見学にお越しください。

埼玉老健介護百人一首 優秀歌

小谷あゆみ賞

「寒くてね」言われ触れた手冷たくて我の手で包み二人ではほ笑む

秋池 美香（いづみケアセンター）

もう無理よふさいだ書道筆持てば途端に伸びる背筋に笑顔

小川のり子（いづみケアセンター）

顔寄せて想いも寄せて話す君介護の仕事キラリ輝く

福島 浩子（いづみケアセンター）

どうしても東京五輪を見るんだとリハビリ励むその背を支える

吉田 彩乃（いづみケアセンター）

病から古希の夫は彷徨ひて止めず急かさず妻は寄り添う

遠藤 薫（カノープス☆羽生）

笑い合い頷くけれど噛み合わずそれでも続く二人の会話

山口 絵吏（上福岡リハケアセンター）

利用者と笑顔でかわす挨拶に元気なころの亡き父重ね

河村 稔之（上福岡リハケアセンター）

利用者さん元気の源は非常識酒にタバコにロックンロール

川鍋 美喜子（しょうわ）

わたし誰あなた誰なの迷い道

保坂 章夫（なでしこ）

金魚見て「これおいしいか」と父たずねほっとするやらぞっとするやら

荒川 陽介（なでしこ）

（施設名五十音順）

彩ろう!豊かな高齢社会を ～老健は地域づくりの担い手です～

小江戸・川越
時の鐘



第29回 全国介護老人保健施設大会 埼玉

日程 平成30年10月17日(水)・18日(木)・19日(金)



会場 ソニックシティ・パレスホテル大宮

大会長 小川 郁男 (公益社団法人全国老人保健施設協会 埼玉県支部長)

編集後記

今号は、今年の10月17日(水)～19日(金)に埼玉県の大宮ソニックシティで行われる全国介護老人保健施設大会前の発行となるため、県民の皆様にも老健に興味を持ってもらい多くの方に大会に参加していただけるように考えて編集しました。編集においては本当に数多くの方に力添えを頂き、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

(柳田)

公益社団法人

埼玉県介護老人保健施設協会

(事務局) 〒350-2213 埼玉県鶴ヶ島市脚折1877番地
介護老人保健施設 鶴ヶ島ケアホーム内

TEL. 049-285-5055 FAX. 049-285-5510

URL: <http://saitamaroken.jp/>

E-mail: sairoken@manjyukai.or.jp